令和３年度　宮城県多賀城高等学校　学校経営方針

Ⅰ　経営方針

【生徒への教育指導】

本校の教育目標である「さとく」「ゆたかに」「たくましく」を踏まえ，将来の社会の建設者としてふさわしい人間性の育成に向け，身に付けて欲しい能力・資質として，

「さとく」　→　＜①問題解決能力，②聞く力・発表する力，③知識・技能の習得＞

「ゆたかに」　→　＜④礼節と人間力＞

「たくましく」→　＜⑤自己実現のための進路指導，⑥防災・減災の担い手＞

の６項目を重点化して掲げ，生徒の成長を支援する教育の実践を図る。また，そのための環境整備に努める。

【職員の校務】

生徒の資質向上に向けた支援を実践するため，我々学校職員は全体の奉仕者として以下の各事項について特に心がける。

⑦生徒・保護者・職員の個々の事情に配慮した対処と適切な情報管理を行う。

⑧立案，実施，検証，修正を一組として校務を捉える。

⑨校務分掌・職員の各段階での適切な目標の設定と自己分析に基づく改善を行う。

⑩防災教育のパイロットスクールとして成果の発信を行う。

Ⅱ　生徒への教育指導上の重点目標

①問題発見・解決能力の育成

課題研究や探究型学習を通して，問題の発見や解決に向けて自発的主体的に考え行動できる力を養うとともに，チームで協働して取り組む姿勢・手法を獲得させる教育活動を計画・実践する。また，課外活動や学校行事において諸問題に柔軟に対応したり，他者との議論を通じて視点や考え方を深める機会を提供する等の支援を行う。

②聞く力・発表する力の育成

授業，学校行事，課外活動等を通して，他人の話を素直に聞き理解する姿勢・能力を育成する。また様々な機会を捉えて，教科書等の書籍・資料等を正しく読み込み内容を理解して活用する力，自らの考えや研究成果を他人に分かりやすく発信する力を養う。

③知識・技能の習得と理解の深化

授業の実践・改善を中心として知識と技能の獲得と定着，並びに理解の深化に努める。また，ホームルーム活動や学年を中心とした指導によって，生涯学習に通じる学習習慣を身につけることが出来るよう生徒を支援する。

④礼節と人間力を身に付け，高めること

学校生活のあらゆる場面を通じ，社会の構成者としてふさわしい良識，礼節を身に付けることができるよう必要な指導を行い，よりよい社会の建設者として積極的な役割を果たせる人間力の涵養を図る。

⑤生徒の自己実現に向けた進路指導の実践

学問や職業を学ぶ活動を通して生徒が自らの適性を知り，自らの志を見つめる機会を提供する。さらに，進路希望実現に向けて何が必要かを生徒が自発的に考察し実践できるよう，継続的かつ計画的な進路指導を実現する。

⑥防災・減災の担い手としての資質育成

防災・減災教育のパイロットスクールとして防災・減災に係る様々な知識・技能を学び，地域の防災・減災のリーダーとしての資質を養うための教育課程を立案・実施するとともにボランティア活動等の実践を通じて生徒の社会参画意識の向上を図る。

Ⅲ　職員の校務姿勢における重点項目

⑦生徒・保護者・職員の個々の事情に配慮した対処と適切な情報管理を行う。

生徒・保護者それぞれの事情や家庭環境，信条等が多様化していることを踏まえ，個に応じた対応を全職員が心がける。また職員どうし互いに尊重し合い，個人情報の管理に最大限の注意を払って慎重に業務を行う。

⑧立案，実施，検証，修正を一体として校務を捉える。

適切な役割の調整と計画立案，起案時の再確認。安全で効率的な活動実践。実施後の検証による改善点の整理を行い修正を施して次年度に備える。

⑨校務分掌・職員の各段階での適切な目標の設定と自己分析に基づく改善を行う。

すべての職員が学校マネジメントの意識を持って校務を考え，管理職・校務分掌・個人の各段階において適切な目標設定と責任分担を意識する。設定した目標は年度途中であっても自己検証し，目標の妥当性，計画の問題点などを振り返り，常に改善を施す。

⑩防災教育のパイロットスクールとして成果の発信を行う。

震災後１０年を経て防災・減災教育の重要性が再認識されていることも踏まえ，本校の担う防災教育パイロットスクールとしての役割を果たせるよう，カリキュラム・教材開発，実践事例の紹介等，研究成果の発信を心がける。